カルメル
霊性センターニュース

聖母子像（宇治カルメル修道院）

2019 年 5 月　　353 号

目次

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・４３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

ヤヌア・チェリ（宇治カルメル会）

心の泉

男子修道院と黙想の家（宇治カルメル会）

第三巻

第二十章　自分の弱さと、この世のみじめさを告白する

２　私たちは弱い者

「主よ、機会あるごとにあらわれる私の弱さやもろさを顧みてください」(詩篇25・18)。私をあわれみ、「泥に沈んでしまわないように、泥のなかから引き上げてください」(詩編69・15)。そしていつまでも見捨てられることのないようにしてください。あなたのみ前にあって、悲しみうろたえるのは、私が邪念に弱く、敗れやすいからです。私は、誘惑にまったく承諾してしまうことはないとしても、そのしつこさに悩まされ痛めつけられ、毎日、このような闘いを続けることに嫌気がさしています。私は、自分のみじめさを知っています。いつもいまわしい想像が入り込みやすく、それがなかなか消え去らないのです。

３　恵みなしに、勝利はありえない

おお、誠実な霊魂をあなたへの愛で燃やしてくださる強力なイスラエルの神よ、あなたのしもべの困難と苦労を顧み、そのすべてのおこないをどうぞお守りください。まだまったく霊に服従していないみじめな肉体によって、再び古い人間が私を支配することのないよう、天の力で私を力づけてください。このあわれな命の続くかぎり、私は肉体に対して闘います。

患難と悲惨とがあとを絶たず、敵と罠とに取り囲まれているこの世の生活とはいったい何なのでしょう。一つの患難や誘惑が去ると、すぐに別のが来ます。そればかりか、まだ前の闘いが続いているのに、別の敵が襲いかかるのです。

４　世間的な楽しみを捨てなさい

苦々しい、不幸と悲しみのただよう人生をどうして愛せましょう？死とわざわいとを生むものを、どうして生命と言えましょう？それなのに人はそれを愛し、そこに楽しみを求めます。世間は空しいと非難しながら、容易にそれを捨てようとしないのは、私たちが肉の欲に支配されているからです。世間に引きつけられるものと、それを軽蔑させるものとには、大きな差があります。「肉の欲、目の欲、生活のおごり」(一ヨハネ２・16)は、世間を愛するように引きつけるものです。しかし、それに続く罰と苦しみとは、世間への憎悪と嫌悪を呼び起こします。

５　天国の甘美さ

残念ながら、世間の奴隷になっている人々は、よこしまな快楽におぼれています。こういう霊魂は、「いばらのなかで生きるのを喜んでいます」(ヨブ30・7)。なぜなら、彼らは神の甘美さと徳の喜びを、味わったことがないからです。かえってまったく世間を捨てて、聖なる規則に従って神に生きようとする人々は、ほんとうに世間を捨てた人々に約束された神の喜びを知り、世間がどれほどに誤っているか、どれほどあざむくものであるかを、明らかに知るのです。》

花々が咲きそろい、新緑が目にしみる季節、５月はマリアさまの月です。
13 日には「ほほえみの聖母」と「ファチマの聖母」の執り成しを特別に思い起こします。テレーズの不思議な病を癒されたほほえみの聖母、そして
１９８１年教皇パウロ二世へ向かう銃弾の軌道を導かれたファチマの聖母。
マリアは教会のなかで弱く　貧しい人々を　ご自分が特別に
保護するものとみなされます

～教皇パウロ２世　ファチマにて

聖母は　弱い子供を守るために　存在しているかのようです。
ですから　子供が成長し自分の足で歩けるようになると母は姿を消します。
それは当たり前で　自然の秩序にかなっています。
そして母は　子供が成長したのちにも　その子が子供のときにもっていた
弱さに　再びぶつかるとき、また姿を現します。
その弱さが　彼のあやまちの結果であれ　災難の結果であれ
母は悲嘆のうちにある子に対して　たとえ彼が成人となっていても
再び母の心を現します。*

伊従 信子（いより のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

*　『いのりの道を行く』聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美（20）

九里（くのり）　彰

前回は、女優の樹木希林さんの手紙を紹介した。その手紙には、追伸があり、これまた、大いに考えさせられる。

追伸
じゃあさ　皆で
同じ形の
ロボット人間に――
――それじゃ　つまりませんネエ

みな「**同じ形のロボット人間**」。何の違いもない。A さんも B さんも C さんもない。あるのは製造番号のみ。もはや差別は生まれようがない。ロボットなので、心もない。前回指摘したように、外見上瓜二つの双子でも、心は別々なのだから、性格や行動の仕方もそれぞれ独特となり、異なってくることだろう。要するに、人間であれば心があり、一人ひとり個性を持っているが、ロボットであれば、何もないということである。差別もなければ、いじめもない。壊れれば、同じロボットを作るだけである。

少し異なるのは、動物であろうか。動物も一匹一匹、一羽一羽、個性があり、私たちはそれによって個体を識別するのである。犬や猫など、人間と一緒に暮らす動物を見れば明らかである。これもロボット動物を作ってみれば（現在では作られているが）、明らかであろう。（ロボット動物は、動物に模したロボットであり、本物の動物ではない。ロボットと交わりながら、動物と交わっていると感じるのは錯覚、イリュージョンにすぎない。）

いずれにせよ、動物も人間もそれぞれ違うので面白いのであって、みな同じロボットだったら、「**それじゃ　つまりませんネエ**」ということになるだろう。動物にも人間にも多様性がある。その原因はと言えば、心があるからだろう。動物にも人間と同じような心があるとは言えないかもしれないが、喜怒哀楽の感情のようなものがあるのは、犬や猫を見ていると、確かと思われる。ある方のご主人が亡くなられた時、ご主人が可愛がっておられた愛犬が、悲しげな遠吠えを何度も繰り返したということを聞いたことがある。

人間の場合、心があるからこそ、違いが生まれる。しかしその違いが差別となり、差別された者の心が傷つくのである。心がなければ、差別されても、ロボットのように、傷つくこともないはずである。（ドラえもんは別だが…）

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（135）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（12）

⑶ 島々：「不思議な島々は海に取り囲まれ、海のかなたにあって、人々との交わりから、遠く離れ、関わりを持たない。それで、こういう島々の産物は、私たちの土地の産物とは非常に異なっている。それらは見たところも変わっているし、私たちのまったく知らない特性を持っていて、見る人々の目を驚かせ感嘆させる。それで、神の内に発見する一般の認識をはるかに越えた、偉大な驚嘆すべき目新しいことや不思議な知識のゆえに、霊魂は神を不思議な島々と呼ぶ」（同上 8）。実際、私が考えているように、この箇所で、アメリカの島々が暗示されているとすれば、彼は描いたような地理上の体験をすることはありませんでした。たしかに海のかなたからもたらされた産物や富については知っていたでしょうが。とはいえ、彼はもう少しでメキシコへ行くところでしたので、行っていれば、航海中、ここで歌ったこれらの島々のいくつかに出会ったことでしょう。

⑷ 河川：「川は三つの特性を持っている。第一、川は出会うすべてものに襲いかかり、沈めてしまう。第二、自分の前にあるすべての低地と空虚を満たす。第三、他のすべての音響をおおって、聞こえなくするほど高いひびきを立てる。今、問題になっている神との交わりにおいて、霊魂は神において以上の三つの特性を、きわめて快く味わう。それゆえに、霊魂は自分の愛する方は『ひびき高く流れる川』だと言う」（同上 9）。霊魂を襲うこれら川は、平和と栄光の川です。

⑸ そよ風：「愛のそよ風が到来するとは、それが、快く触覚に触れ、このような慰めを望んでいた者の要求を満たす時である。事実その時こそ、触覚は喜び楽しむ。と同時に聴覚も、そよ風のささやきを聞いて、大いに喜び楽しむ。そしてこの聴覚の楽しみは、そよ風に触れる時の触覚の楽しみにはるかにまさる」（同上 13）。

復活節第３主日（C）

（ヨハネ２１：１－１９）

ガリラヤ湖で、復活したイエスは弟子たちに現れます。とくに、シモン・ペトロとイエスとの出会いは印象的です。ペトロはイエスを見ると湖に飛び込み、泳いで岸まで行ってしまいます。イエスへの一途な愛が感じられます。イエスが用意したパンと魚を食べ終わると、イエスはペトロに尋ねます。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」。ペトロは答えます。「それはあなたがよくご存じのことです」。イエスは「わたしの羊を飼いなさい」と命じますが、この質問を三度も繰り返され、ペトロを悲しませます。この悲しみは、イエスへの愛が分かってもらえないという悲しみでしょうか。そうではないと思います。三度の繰り返しをとおして、ペトロは自分が以前に三度イエスを「知らない」と言ったことを思い出したのです。あのとき、イエスを見捨てて逃げ出したこと、人々の前でイエスの弟子であることを隠したことを思い出し、自分の不甲斐なさを悲しんだのだと思います。

ペトロは今、そのような弱さを乗り越える力を感じています。復活のイエスから来るエネルギーが彼の心を燃え立たせています。イエスを見捨ててしまった自分をイエスは見捨てていない。愛をもって現れ、「あなたがたに平和」と言ってくださるさわやかなイエスに何度も触れ、イエスの用意した食事を食べて、心も体もイエスから来る愛と赦しでみなぎっているからです。復活したイエスとその交わりの食事がペトロを力づけているからです。

イエスはそのようなペトロにご自分の羊を牧させ、「わたしに従いなさい」と言われます。そして、その道は「他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」という道であることも預言されます。ペトロも十字架を担い、それによって神に栄光を帰すことをイエスは予告されたのです。愛のために死ぬ、友のために死ぬ、これ以上に大きな愛はないという愛に燃えて生涯を完全燃焼することをペトロに告げられます。

「生きたくないところに行かされる」と言われると、私たちは気がすくみます。しかし、イエスはそのような十字架の道こそが、愛の完全燃焼の道であることを教えているのだと思います。私たちは皆死にたくありません。でも死ななければなりません。皆行きたくないところに向かって生きています。同様に人生にはたくさんの思い通りにはいかない困難や不条理がやってきます。イエスはそのような道を愛で燃焼させることができることを、ペトロをとおして私たちにも教えているのだと思います。復活のイエスとの交わりを生き、その食事に養われることで、私たちは、私たちの十字架を愛で満たし、それをとおして神に栄光を帰し、永遠の命へと過ぎ越すことができるのです。「あなたがたも、一粒の麦として地に落ちなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」とイエスは言っているように思います。

（今泉健神父）

復活節第４主日

（ヨハネ１０：２７－３０）

復活節第４主日は、伝統的に「よい牧者の主日」と呼ばれています。最高の牧者であるイエスが、忠実で謙遜な弟子たちを御父のふところへと導くために来られたからです。

本日の福音は、私たちを青草の原に休ませ、杯を芳醇なぶどう酒で溢れさせてくれるよい牧者がいつもいるので、どんな困難が降りかかってきても神に信頼して絶望しないように、と私たち一人ひとりに呼びかけています。一般的な羊飼いと同じく、イエスも私たちから決して離れず、危険な目に遭わせません。私たちが直面する挑戦や危険は、一般の羊よりもはるかに大きいですが、それと同時に、主に忠実に仕える者に対する永遠の報いは、この世のどんな豊かな牧場もその足元に及びません。キリストは、私たちに対し、満ち足りた安楽なバカンスを与えることに主眼を置かず、この世の想像を超える「永遠のいのち」という栄光に輝く目的地へと導いてくださいます。私たちは、よい牧者の導きの下、「世からは迫害を、神からは慰めを受けながら」旅路を歩み続けます（参照：カトリック教会のカテキズム 769）。

福音は、私たちに対し、「耳をすませる羊」となることも促しています。キリストの群れの羊として、聖書のみことばと教会の教えを通じて主の声に耳を傾けているでしょうか？牧者キリストにどのように従っていますか？主と同じように、貧しい人にあわれみ深く接しているでしょうか？主が祈ったように祈り、主が情熱を傾けたものに対して私たちも同じ熱意を持っているでしょうか？現代では、みことばの祭儀や秘跡によってイエスの声に聞き従うことができるよう、司祭たちは常に私たちを助けてくれます。かしらであるキリストの代理人を務める彼らの聖職に、私たちはどのように応えているでしょうか？

「よい牧者の主日」は、「世界召命の日」でもあります。教会は、さらにたくさんの人々が牧者の声を聞き分けて従うことができるようにと、司祭や修道者の召命を増やすための祈りと支援を呼びかけています。牧者の教えを聞いて守る羊自身も、よい牧者へと成長します。これこそ主が私たちに求めていることです。永遠のいのちを他者に与える喜びにあずかってほしいのです。そのためのカギは、私たち自身が従順な羊になることです。従順な弟子だけが、宣教者としての力を発揮できます。自分の羊の特徴についてイエスがこう語っているとおりです。「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。」

(Sr.Paulina)

復活節第５主日

（ヨハネ１３：３１-３３ａ、３４-３５）

今日のみことばは、最後の晩餐を終えて、十字架上での死を間近にされたイエスが、弟子たちに語られた場面が述べられ、イエスを裏切るユダが、イエスと他の弟子たちのところから出て行った後、イエスが栄光について語られます。ここで語られる栄光は、もちろんイエスの受難による栄光です。

イエスの受難によって、神から人の子が栄光を受ける。すなわち神が人の子に栄光をお与えになる。そして神も人の子によって栄光をお受けになる。つまり人の子から神に栄光が帰せられるわけです。その栄光の頂点が、イエスが受けられた十字架なのです。

父なる神は、私たちを愛し、ご自分の愛する独り子をこの世に遣わして下さいました。目に見えない神の「みことば」が人となられ、私たちの救いのためにその生命を捧げて下さいました。この世に来られた神の子イエスは、ご自分を捧げて父のみ心を行われ、私たちへの愛を示して下さったのです。

イエスは言われます「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」と。互いに愛し合うことは、古くから昔から人が行ってきたこと、行われてきたことですね。しかしイエスは、「わたしがあなたがたを愛したように」と言われます。神であることに固執せず、神でありながら人となられ、十字架につけられご自分の生命を捧げるほどに私たちを愛して下さったのです。

聖書、福音書の中には、イエスが人を愛される具体的な場面が沢山語られています。悪霊を追い出し、病気や患いを癒され、また時には律法の規定では汚れる様な、病人に手に触れることまでなさったり、ユダヤ人が交際しないサマリアの女に語り掛けたり、異邦人の女性の願いに応じてその女性の娘を癒される等々、思い起こすと多くの箇所がありますが、その頂点が十字架上でのご死去でした。

復活節、イエスの復活を喜び祝い、神を讃え賛美しながら、神が行われた偉大な業を思い起こし、ともに歩んでいる私たちですが、イエスが人々を愛されたその姿を想い、イエスに倣って、互いに愛し合いながら、愛のうちに生きることができます様に。

（Fr.　古川利雅）

復活節第６主日

（ヨハネ１４：２３－２９）

主の昇天と聖霊降臨が近づいている今、ヨハネ福音書で主のお別れの言葉を聞きます。ここには、やさしい別れの気持ちがあります。主は去って行かれますが、私たちは平和を、そして聖霊によるいつまでも続く教えを約束されます。

キリストは差し迫った死のことを暗に言っただけではありません、キリストの十字架の死を弟子たちが受け入れるように準備をし、弟子たちが独りとり残されるのではないことを保証します。神は備えます。今回、この備えは聖霊です。聖霊は、キリストの始めたことを継続するため、あとに残る者たちの友となり、助け手、弁護者、教師となります。十字架とそれを快く受け入れるキリストの思いは、キリストの愛の世界への表れです。キリストはその愛を実行します。キリストは私たちを愛しているので、自分の命を捨てることを選びます。

十字架はキリストの栄光の道具であり、キリストに従う私たちが栄光を受ける道具となります。十字架は私たちへの神の恵みであり、神の私たちへの変わらない愛を表わしています。

ヨハネ書のこの部分は、神の三つのペルソナ――おん父である神、神の子であるキリスト、神の聖霊――を表わしています。神聖な三位一体は、神が私たちにとってどなたであるか、神がその永遠に続く愛で私たちのために何をしてくださったかを表わしています。神は、この三つのペルソナ全体で私たちを育て、愛してくださいます。キリストは、弟子たちから去る前に、「私たちは愛されていて、神の愛のうちに私たちは平和を見出す」ということを知らせてくださいました。

真の愛は、私たちが感じたり、神の愛の恵みを通して受けとったものをどうするかということではありません。愛のうちに行なうことによって、他の人は私たちがキリストに従う者であることを知ります。キリストは奉仕の模範を示してくださいます。地上での生活で、あらゆる人たちに手を差しのべました。身分の低い人たちも愛し、ホームレスや、無力な人、貧しい人、飢えている人、病人、喪失感に苦しむ人、怯えている人たちを迎え入れ、その模範に従うように私たちを招きました。キリストは私たちが生活の重荷を担い合い、自分と似ている人も似ていない人も愛するように招きました。キリストが祝福した者たちのただ中でキリストの生命を生き、自分を与える行ないの中に祝福を見出します。

キリストの生命のうちに、死を通して、復活によって受け取った大切な教訓は世界に奉仕します。この教訓は、どのようにキリストを愛するか、神に奉仕するか、そして私たちの日々の生活の中で聖霊がともにいてくださることを教えています。

(Sr.Paulina)

いのちの言葉　５月

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

（ヨハネによる福音書２０・２１）

福音史家ヨハネは、弟子たちを恐怖と絶望に陥らせた、十字架上でのイエスの死について語った後、イエスが復活し、弟子たちのもとに戻ってきたと驚くべきことを告げます。
事実、復活されたイエスは、安息日の朝、マグダラのマリアに、さらにその晩、暗い部屋に閉じこもり怯えていた他の弟子たちにも姿を現されます。

イエスは、まず弟子たちに会うために、自ら彼らを探しに行かれたのです。そして、彼らがご自分を裏切り、危険から逃げ去ったことを問うことなく、十字架刑によるご自分の手足、脇腹の御傷を彼らにお見せになりました。

イエスが彼らに発した最初の言葉は、「平和があるように」でした。このイエスの言葉は、弟子たちの魂を隅々まで満たし、彼らの人生を根底から変えた真の賜物でした。

こうして、イエスだと分かった弟子たちの心には喜びが溢れ、師であり、主であるイエスと共にいることで、彼らは癒され、慰められ、照らされ、新たにされるのを実感したのです。

復活されたイエスは、不完全で弱い弟子たちに大きな任務を委ねられました。イエスがされたと同じように、福音の新しさを全世界にもたらす使命を彼らにお与えになったからです。御父がイエスを信頼されたように、イエスも又、このような弟子たちを信頼されたのです！

そして、イエスは最後に「弟子たちに息を吹きかけた」と、ヨハネは記しています。それは、イエスが、心と思いのすべてを新たにするご自分の「愛の霊」を弟子たちにお与えになったことを意味します。

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

イエスも、友情の喜び、人から裏切られる苦しみ、仕事の労苦、旅の疲れ等、さまざまな体験をされ、私たちが日々味わう限界や困難、敗北感も、もちろんご存知です。そんなイエスだからこそ、弟子たちにされたように、暗闇で心を閉ざしている私たちをも探し出し信頼して下さらないはずはありません。

イエスは、私たちと新しい生き方を体験したいとお望みなのです。それは、私たちがイエスとの体験を他の人と分かち合い、彼との出会いを私たちが証しできるようになるためです。自分から「外」に出て、イエスが御

父から受けた使命、つまり、「神は愛でおられる」ことを、他の人々に告げ知らせるようになるためです。

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

キアラ・ルービックは語ります。「初代キリスト者が『私たちが聞いたこと、目で見たことを伝えます』と言ったように、私たちもみ言葉を生きてそれを告げるなら、福音宣教は実りをもたらすでしょう。当時の人はキリスト者のことを『彼らがどれほど愛し合っていることか。互いに死ぬ覚悟がある』と言いました。このように愛し合うなら、私たちの告げるみ言葉も実りをもたらすでしょう。また、困っている人に食べ物、衣類、家を提供し、孤独な人、絶望した人の友となり、試練にある人を支えるなら、私たちの告げる福音はきっと実りをもたらすでしょう。こうして、イエスの素晴らしさは世で証しされ、私たちは『もう一人のイエス』となって生き、私たちを通しても、イエスはご自分の業を続けていかれるでしょう」と。

あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

確かに、孤独や苦しむ人の中に、イエスの姿を見ることができます。そして、私たちも彼らと共に生き、イエスがくださる平和に向かって共に歩むことができるでしょう。

南イタリアでは、マリア・ピアとその友人たちが小さな支援センターで移民の人々を支えていますが、戦争の体験や暴力を被った深い苦渋を彼らの表情から見て取ることができます。

マリア・ピアは語っています。「私が何を探しているか分かりますか？私の人生に意味を与えてくれるのはイエスで、より傷ついている兄弟の中に彼が居て、そこで彼に会えると私には分かっています。それでこの支援センターを通して、彼らにイタリア語を教え、家や仕事を探し物質的な援助もしています。ある時、『皆さんには、精神的な支えも必要ですか？』と訊くと、そこにいた東方教会の女性たちがとても喜んでくれました。その後バプティスト教会の信徒たちもセンターに来るようになり、彼らの教会は何キロも離れた所にあったのですが、牧師さんと協力して彼らも日曜日の礼拝に行けるようになりました。こうして生まれてきたクリスチャン同士の友情は、文化交流、パネルディスカッション、コンサートなどでさらに深められ、彼らは、違いのなかに一致をもたらす存在となっていき、まるで『神の国』を証しする『民』のようになりました。」と。

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ: https://www.focolare.org/japan/

石の声を聴く　　石原淳子

心を惹かれたテレビ番組がありました。

石（いしころ）がテーマで、お名前は失念してしまったのですが石の魅力にとりつかれているという紀行作家の石への熱情。　それと石花という世界のこと、その世界を創る石花師という人たちの興味深い姿が紹介されていて、思わず心を熱くして見入り聴き入り、よい時間を得ました。

紀行作家の石（いしころ）への執心の様子は、はたから見ていても楽しくほれぼれするほどでした。　紀行作家として世界各国をめぐりながら、どの国でも必ず石（いしころ）を探し拾う無我夢中の長い時間を過ごすのだといいます。どのような石（いしころ）を探し拾うのか拾い上げる基準はというと、手で握ってしっくりくるもの、いい感じがあるものなのだそうです。　掌にしっくりときて、いい感じの石（いしころ）か、それはなかなかすてきな奥深いことではなかろうかと、私も心ときめく思いをもちます。

海辺、河原、野山、そこらじゅうで拾い集めたお宝の収集物は千個以上もあり、その中からご本人が選ぶベスト３のお話を聞くのですが、面白いことにその三つの石は、一見して誰もが歓声をあげて同感するような要素はどこにもないと思われるのです。　石にはそれぞれ太陽系石、蛤石、豆石と名付けられて収集主の高揚した説明が熱くなされるのですが、普通に見てほんとうに何の変哲もないただの石（いしころ）にしか見えません。　ただその石を手にして語る収集主紀行作家その人こそが、私にはとても魅力的で好ましく思われ、石は宇宙の神秘としか言いようがない、人間が見て美しいと思うもの、世界中の造形の美はすべて石の中に宿っている、人間の作為は決して入り込めないのだというお話の数々に、心から頷く深い説得力を感じたのでした。

他方の石花というのは実際に見ていて驚くような世界でした。

積み木のように石を積み上げるのですが、とにかくあり得ないようなバランスをとって数個の石（いしころ）が宙に浮くかに奇妙な形に立ち上がっていくのです。　石が触れ合っている接点は１センチかとも見えるほんとうにわずかな部分です。　なぜこんなことが起きるのかとまるで手品のような出来事に驚嘆します。　石花師たちは書道教室か華道教室のような感じの場所で、掌に石を包み祈るような姿勢でじっと静かにしています。　そのうち石はつながり屹立するのです。　「手を通して石の声を聴く、石に従う、石のままにする、・・・そして、全てが整った瞬間全てが軽くなる」のだそうです。

「石は気の遠くなるような長い長い年数を経て石となるので、時間というエネルギーを秘めている。　そのエネルギーと、また、鉱物と鉱物の関係、血の通っていないただの物と物が関係し合うこと、そこに作り出されるものに魅せられている」と語られるのを、私は自分のまだ知らない遠いロマンのように、詩のように聴き惚れたのでした。

石の声を聴く、という言葉に心惹かれました。

聞こえるはずもない声に耳を澄ます。

沈黙を聴くなどというと概念化してしまうようで、心に添わない気がするのですが、手を通じて石の声を聴く、遠い時間の途方もないエネルギーに捕らえられる、無機物同士が関係し合うというようなことに、こうしてただひたすらじっと心を凝らして想いを向けていると、これらの何もかもがいつの間にか私の身を包むように深く馴染んできて、切実な私のこととして思えてくるのはなぜでしょうか。　私たちは感覚も思念も届き得ない無辺世界への、何か言いようのない憧れを持っていて、それをむしろ無機物の石（いしころ）に託して自らの奥底の深い闇、或いは果てない遠い光りに出会おうとするのではないかと思ったことでした。

乱雑さとか夾雑物のない無機物、私たちから隔絶した石（いしころ）とのかかわりは、もしかしたら神との関係を髣髴させるのかもしれません。

神さまは血の通った人間の一人ひとり、そして人間同士のあらゆるすべてに関係し、その上また血の通わない石（いしころ）と人間のかかわりにも深く関係しておられるのでしょうか。

思い深めてゆく焦点はやがて宙いっぱいに広がり、神の御子私たちのキリストへと結ばれてゆき、私は主イエズスを想うその想いに抱かれるようにして主の平安の内に安らぐのです。　耳にあるのは石の声でしょうか。

唐突ですが、遠藤周作の真摯な静かな初期随筆集があります。

若い頃に好きで愛読しましたがその表題が「石の声」です。　宗教、文学、紀行の３０篇余りの随筆に、直接は関係のない「石の声」という一語。

今あらためて「石の声」とは遠藤周作の如何なる心が込められているのだろうかと切に思われてなりません。

（上野毛教会信徒）

糸巻き棒からペンへ(42)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

決定的回心

ついに、神は彼女を完全に打ち負かしました。この点について、聖女は、主が「大きな恵みをもって私の罪を罰しました」と叫びました。そして「むしろ主が私を赦すのに飽きるよりも私が主にそむくことに飽きるでしょう」(『自叙伝』19･17) と付け加えています。この時期、彼女の落ち着かない心は、さまざまな外的出来事を、神からの個人的な呼びかけと解釈しました。ある場合には、訪問客に応対していた時、主が憤られて彼女を見ていると感じました。面会室にいた非常に大きなガマガエルのことを、再び思いめぐらしました。ある説教では、主が大声で彼女を呼んでいるように思われました。特に、知りたいという思いから専念していた霊的読書は、彼女の中に、より徹底的に主に自分を委ねたいという望みを起こさせました。

ある日、聖女が礼拝堂に入った時、そこに「傷だらけのキリスト」像を見、それほどの愛によって償われた悪に対し、悲しみに襲われ、涙にかきくれ、もはや主にそむかぬ力をくださるよう主に祈ったのです (同 9･1)。少しして、聖アウグスティヌスの『告白録』を読んだ時には、そこに自分のことが説明されているのを感じます。「特に二回あれほどの痛悔に心も破れるばかりの思いで涙を流して以来、私は、もっと念祷に身をゆだねるようになり、……霊的恵みは、ますます大きくなっていきました。……神の現存の感覚が訪れ、主が私の内におられ、私は主の内にまったく没入していることを、決して疑うことはできませんでした」(同 9･10)。

今、私たちは 1554 年におり、39 歳のテレジアは、以前のすべての体験の実りとして、人生の新たな時期、すなわちもっとも独創的で創造的な時期を始めようとしているところです。その時期において、彼女がまず優先した選択は、内的生活をはぐくむことでした。他の人々が人生について考える事柄の上に、つまり、被造物の中に愛を求めることや、外的な仕事や活動（それらがどんなに良いもので宗教的なものであろうと）の上に、自分の人生を築き上げようとする時期は終わりました。この時から、祈り（念祷）は、彼女の人生の中核となったのです。

（続く）

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>> **2019年4月11日**

教皇フランシスコ、モロッコ訪問

タンジェの女子跣足カルメル修道院のシスター達が教皇に謁見

教皇フランシスコは、モロッコ訪問中の今年３月３１日に、ラバトのカテドラルで司祭、修道者奉献生活者、教会のエキュメニカル評議員会メンバー達と会われました。私たちのタンジェの女子跣足カルメル修道院のシスター達も大きな喜びをもってこの聖ペトロの後継者との謁見に参加し、教皇に伴われ愛されていることを身近に感じ、教皇の信仰とこのアフリカのイスラム教国に対する神への寛大な委託を確信しました。教皇に謁見した人々は皆、モロッコにある小さなキリスト者の共同体は決して取るに足らないものではないことを思い起す教皇のお言葉を聴き強められました。教皇は、さらにキリスト教諸派間 及びイスラム教の人々との協力、対話、慈善奉仕を呼びかけられました。

一方、写真にあるように私たちの女子カルメル修道院のシスターたちは、現地で破損された修道院の大切な修復作業に取り組んでおり、これには経費もかかりますが絶対に必要とされていることです。

カルメル誌　新刊案内

2019年　春号　No.372

《祈りを学びたい人のために》

信仰生活(再)入門　テレーズと共に歩む　幼子の道(5)
　—祈りを始めるために(1)「知ること」と「祈ること」
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(1)「夜も昼も切に」
　—テサロニケの教会への手紙Ⅰ　田畑邦治

現代社会において
　祈りの人となるには(1)　九里　彰

風に吹かれて(19)—変わるもの、変わらないもの
原　造

現代に響くルルドの霊性(Ⅳ)
　－ひとりひとりが出会う聖母マリア
須沢かおり

キリストに伴われて季節を巡る(5)　伊従信子

僕の通学路には象がいる　森　みさ

カルメル会の会則に見る
　アシェーシスと修道生活(5)　九里　彰

霊性研究会議義録(4)—歴史のキリスト、存在のキリスト、
　愛のキリストについて　奥村一朗

2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」
—『ラウダート・シ』を生きる—

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」
吉川まみ

長く見落とされてきた
「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で
—『ラウダート・シ』の霊性
中川博道

諸宗教対話の立場からひと言
フランコ・ソットコルノラ

自然とカルメルの霊性
　—十字架の聖ヨハネを中心にして
九里　彰

ご案内　　1 冊 520 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700 円【520 円（+送料 180 円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

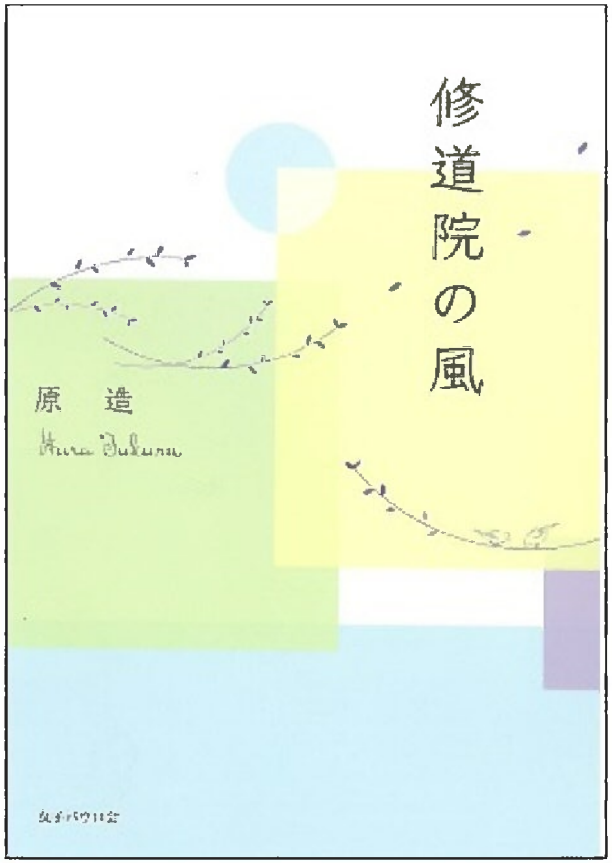
オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

修道院の風

宇治カルメル会 修士　原　造・著

競争社会の真っただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。
この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはなかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々の、祈りにふれて綴った随想の風。



著者★原　造（はら　つくる）
1946年　群馬県桐生市生まれ。
1991年　男子跣足カルメル修道会入会。
1997年　荘厳誓願宣立。
現在に至る。

B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0　C0016　NDC194

サンパウロ

愛と英知の道

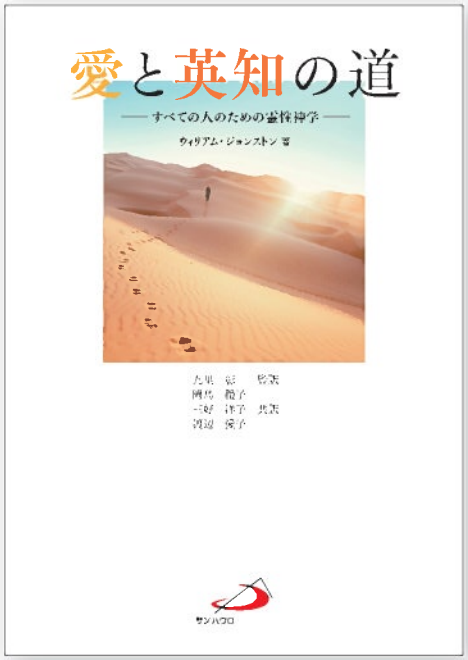
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

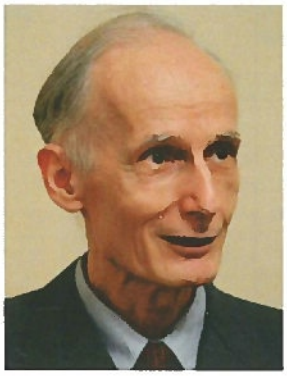
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス［Riesenhuber, Klaus］

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　**慈悲と隣人愛**　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　**多文化に生きる宗教**　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　**日本の神学を求めて**　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　**日本語とキリスト教**　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　**現代人と宗教**　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　**永遠のいのち**　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　**カルメルの霊性**　解説・高橋泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　**神に向かう〈祈り〉**　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　**奉献の道**　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【クリスマス】　１２月２４日(火)～２５日(水)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会　（土曜日１８時～日曜日１６時）　大瀬高司 神父

５月１１日(土)～１２日(日)

７月２０日(土)～２１日(日)

１１月３０日(土)～１２月１日(日)

一泊黙想会　（土曜日１６時～日曜日１６時）　志村武神父

５月２５日～２６日　　２０２０年

７月６日～７日　　１月１８日～１９日

１１月９日～１０日　　３月１４日～１５日

日帰り黙想会　（１３時３０分～１６時）　福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

５月　９日(木)　５月３１日(金)　６月１３日(木)　６月２８日(金)

７月１１日(木)　７月２６日(金)　９月１２日(金)

１０月３１日(木)　１１月１４日(木)　１１月２９日(金)　１２月１３日(金)

２０２０年

１月　９日(木)　１月３１日(金)　２月２７日(木)　３月１２日(木)　３月２７日(金)

＊各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会　（初日１７時～最終日朝食）　福田正範 神父

８月１日(木)～１０日(土)　　１０月１０日(木)～１９日(土)

８月１６日(金)～２５日(日)　　１２月２７日(金)～１月５日(日)

青年黙想会(男女)　35歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　２０２０年
　　2月１５日(土)～１６日(日)

召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士
　　１１月２２日(金)～１１月２４日(日)

特別黙想会（初日２０時～翌日１６時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
　　１１月１５日(金)～１１月１７日(日)

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊　間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊　日帰り黙想会　＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想の家）

指導：福田正範神父

＊午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

時刻：13:30～16:00

日時：2019年　5月9日（木）
5月31日（金）
6月13日（木）
6月28日（金）
7月11日（木）
7月26日（金）
9月12日（金）
10月31日（木）
11月14日（木）
11月29日（金）
12月13日（金）

2020年　1月9日（木）
1月31日（金）
2月27日（木）
3月12日（木）
3月27日（金）

＊お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所:　カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導:　志村　武神父

会費:　¥6500

日時:　2019年　5月25日(土)～26日(日)　16時開始、翌日16時まで

7月　6日(土)～ 7日(日)　〃

11月　6日(土)～ 7日(日)　〃

2020年　1月 16日(土)～18日(日)　〃

3月14日(土)～15日(日)　〃

＊お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
〒158－0093　東京都世田谷区上野毛2－14－25
TEL.03－5706－7355
FAX.03－3704－1789
Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）
6月 1日(土)～ 2日(日) イエスと出会い直す　中川博道神父
7月13日(土)～14日(日)「私の隣人とはだれですか？」　九里彰神父
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし　中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）
6月 8日(土) 中川博道神父　　11月16日(土) 九里彰神父
9月 7日(土) 九里彰神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）
5月15日(水)「だれが一番偉いか？」　九里彰神父
10月30日(水) かそけきもの　Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である　Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに　中川博道神父

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）
5月18日(土) ”我”に立ち返る時　中川博道神父
6月29日(土) ゴールは近い　Br.原造
7月27日(土) 「私は復活であり、命である」　九里彰神父
9月21日(土) み国が来ますように　Sr.ロサ
10月26日(土) 「思い悩むな」　九里彰神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）
9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会　中川博道神父
10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア　九里彰神父
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ　中川博道神父

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）
5月23日(木)～6月1日(土)　九里彰神父
8月 5日(月)～14日(水)　中川博道神父
8月19日(月)～28日(水)　九里彰神父
11月 6日(水)～15日(金)　中川博道神父
12月27日(金)～1月5日(日)　中川博道神父

【待降節の黙想】（午後５時～午後４時）
12 月 7 日（土）～8 日（日）「メシアのしるし」　九里彰神父

祭日のミサに参加するために
チェックイン午後４時以降可　チェックアウト午前 11:30｛講話なし 各食事つき｝

【クリスマス】
12 月 24 日（火）～12 月 25 日（水）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－
☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに57年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558　Fax:　052-681-6445

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　　時　：　２０１９年　5月4日（土）　１３時 から １７時

場　　所　：　カルメル修道会　日比野（本部）修道院　（ カトリック日比野教会 ）

プログラム　：　１３時　～　講話・黙想など
　　１６時　～　ミサ（ミサ中に教会の祈り）、サルヴェ・レジナ（ミサ後）
　　１７時　　解散

・受付開始は１２時半の予定です。
・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他　：　参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
（ 尚、当日は、１，０００円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。 ）

問い合せ　：　郵便、ＦＡＸ、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便　456-0062　名古屋市 熱田区 大宝 ４－５－１７
ＦＡＸ　０５２－６８１－６４４５
E-mail　hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

６月１日（土）、７月６日（土）、＜８月はお休みとなります＞、
９月７日（土）、10月５日（土）、11月２日（土）、12月７日（土）。

何れも原則１３時から１７時まで。ホームページでもご案内しています。

http://www.carmel-monastery.jp

＜ 主催 ＞　男子跣足カルメル修道会 日比野（本部）修道院　（大瀬神父・ウイリー神父・古川神父）

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０１９年 ― 祈りの集いのご案内

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

２月１４日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

１月１０日　「わたしはある」（ヨハネ8:２４.２８）
２月１４日　「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:１２.１２:４６）
３月１４日　「わたしは門である」（ヨハネ１０:７－９）
４月１１日　「わたしは良い羊飼いである」（ヨハネ１０:１４）
５月　９日　「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ１１:２５）
６月１３日　「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:３５.５１）
７月１１日　「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ１４:6）
８月　　休み
９月１２日　「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ１５:１－１２）
１０月１０日　「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ２８:２０）
１１月１４日　「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
１２月１２日　「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ１８:２０）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

【 2019年５月１１日（土)】

「洗礼のめぐみ」

イエスさまによってもたらされた新しいいのち
そのいのちに与る洗礼について
祈り、考えます。

（参考テキスト『いのりの道をゆく』伊従 信子編･著）

講話・祈り・分かち合い　　２時～午後５ 時 30 分

担当　　中山真里

【 2019年５月２５日（土)】

「母マリア」　聖母月に

講話・祈り　　２時～午後５ 時 30 分

担当　　伊従　信子

場　所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200 円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jesuits.or.jp/　　**込み受付・・開始日の８日前まで**

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
サダナⅠ	5/23(木)17:30-26(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田修道院 (町田市)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp 同上
沖縄サダナⅠ＆アドバンス	5/30(木)17:30-6/2(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	愛楽園教会 (名護市済井出)	宮城(みやぎ) 鈴代 TEL 090-4471-6456 suzuyo.t.m@gmail.com
入門Ｃ	6/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※
自己を知る *1泊2日×2=合計4日	6/15(土)10:00-16(日)16:00 6/22(土)10:00-23(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会 上野毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上
フォローアップ	6/30(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
フォローアップ新Ⅰ	7/7(日) 9:30-17:00	サダナチーム	同上 ※16時からミサあり。椅子での黙想です。	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

◆サダナ新Ⅰ

入門A.B.C（サダナⅠ）に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０１９年）

◎　所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎　交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎　日　程：

A.　8 日間の個人指導による黙想
初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。
①　5 月　5 日（日）～　5 月 13 日（月）
②　8 月 14 日（水）～　8 月 22 日（木）
③　10 月　6 日（日）～　10 月 14 日（月）
⑤　12 月 27 日（金）～2020 年 1 月　4 日（土）

B.　祈りの体験：週末 3 日間　(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
④　6 月 21 日（金）～6 月 23 日（日）
⑤　7 月 12 日（金）～7 月 14 日（日）
⑥　9 月 20 日（金）～9 月 22 日（日）
⑦　11 月 15 日（金）～11 月 17 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

2019 年 5 月 30 日（木）夕食 ～ 6 月 7 日（金）昼食　　小暮　康久 師（SJ）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　司祭、　ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎　申込み：　1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2）〒住所　3）電話番号　4）希望日程(番号）を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。　先着順 11 名です。

◎ 女子青年　黙想会
①　6 月 15 日（土）15 時～6 月 16 日（日）15 時 30 分
②　10 月 26 日（土）15 時～10 月 27 日（日）15 時 30 分
申込み：唐崎修道院　Sr.桂川 美代（Tel:077-579-2884　Fax:077-579-3804）

◎　その他：　司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。　(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
１４：００～１６：００

指導：九里（くのり）　彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】　聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

~~1月24日　まことの家族とは~~　終了
~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）~~
~~3月21日　祈りと祈りの場~~　終了
~~「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）~~
５月１６日　　人間の傲慢
「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）
７月２５日　　神の愛と隣人愛
「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）
９月２６日　　信仰と救い
「あなたの信仰があなたを救った。」
（ルカ7・50；8・48；18・42）
１１月２８日　神の愛と回心
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」
（ルカ19・10）
１２月１９日　謙遜と従順　（講話の後、ミサ）
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《復活節第三水曜日の典礼》

日時：2019 年 **5 月 8 日** 水曜日

13 時半　　晩の祈りの練習

14 時　　歌唱ミサ

ひきつづき　晩の祈り（歌）（終了予定　16 時頃）

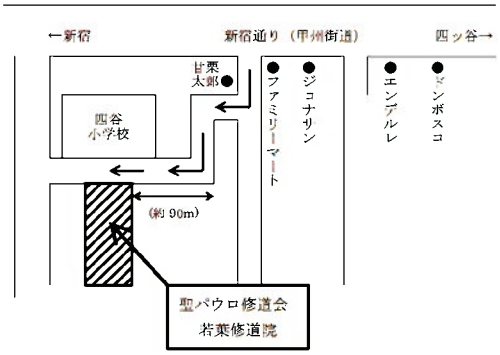
司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会　若葉修道院

＊上履きをご持参ください

東京都新宿区若葉 1-5

JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車



＜道順＞

四ッ谷駅より

サンパウロ→ドンボスコ→
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約 90m 直進
四谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

「わたしの父の意志は、子を見て信じる者が永遠のいのちを保ち、
終わりの日に復活することである。」（当日のアレルヤ唱参照）

問合せ・連絡先： TEL/FAX 045-402-5131（藤井）
e-mail: shihennokai@gmail.com

午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

≪イエスを生きる起点≫

—ペトロとパウロ—

日　時：2019 年 6 月 29 日(土)
12 時 ～ 16 時（受付 11 時半）

指　導：中川博道神父　（カルメル修道会）

対　象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会
をご記入の上、
FAX 又はメールにて　（返信します）
定員になり次第〆切(4 月 4 日から受付開始です)
FAX:045-402-5131
e-mail:shihennokai@gmail.com

場　所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉 1-5
JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車
サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折
→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m 直進
四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131（藤井）
e-mail: shihennokai@gmail.com

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座（新設）へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
≪変わりました≫ reisei@carmel-monastery.jp

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、７月より、宇治霊性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。
献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先日、82 歳のブラザー（修道士）がデイサービスからもどってきた。食事の時に、「今日、プロポーズをされてしまったが、どうしたらよいでしょうか」と言って来た。

「よくよく考えて識別していかなくてはいけない。修道召命をこのまま貫くか、結婚をして家庭を持つか、しっかり祈るように」と答えたが、よく聞くと、プロポーズされたのではなく、自分がプロポーズしたようである。というのも、相手の女性とは明確に言葉を交わしたのではなく、プロポーズされたような感じがするというだけなのである。

どういうことなのかさらに聞いていると、相手の女性のお母さんから、「後、20 年待ってください」と言われたとのこと。何とそれもそのはず、相手の女性とは、現在、その家にいる 3 歳のサキちゃんであった。

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願致します

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017 年 7 月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　５月２４日(金)　午前１０時頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456